

鳥取県地震

2023年（令和5年）1月

鳥取地方気象台

目次

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
震源リスト（M2.0以上）	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	
震度のリスト	1
震度分布図	1
(3) 地震・津波の知識	
気象庁が行う地震の現地調査	2

- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。

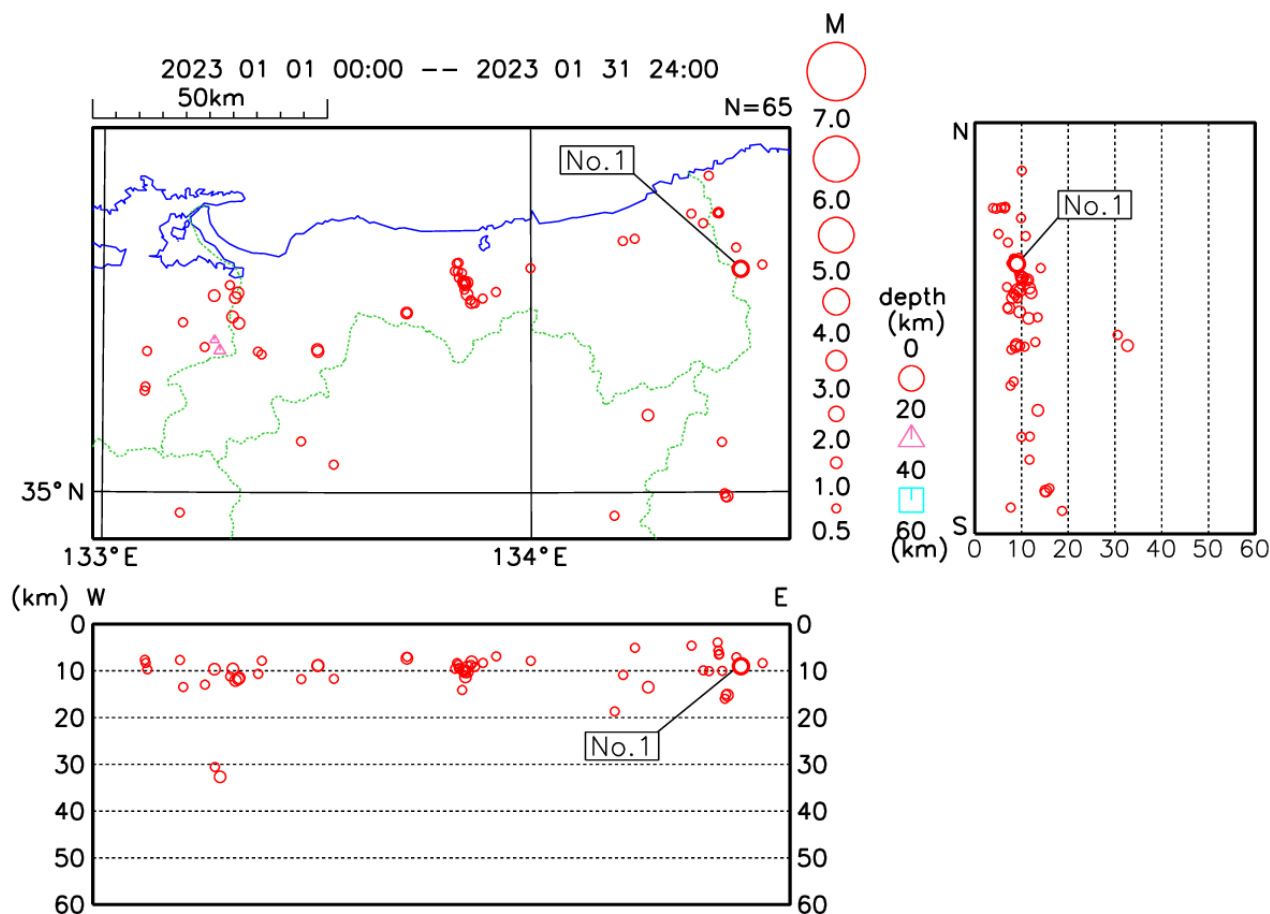
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

- 本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがある。

* 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。
大阪管内地震活動図URL <https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動

[震央分布図・断面図]



[概 況]

2023 年 1 月に鳥取県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震はありませんでした（先月も 0 回）。
上記震央分布図内において、M2.0 以上の地震は 1 回（前月は 2 回）でした（番号は震源リストに対応）。

[震源リスト(震央分布図内のM2.0以上の震源リスト)]

期間 : 2023 年 1 月 1 日 00 時 00 分～2023 年 1 月 31 日 24 時 00 分

緯度 : 34° 55' ～35° 45' N 経度 : 133° 00' ～134° 40' E

深さ : 0 km～60 km

No.	発震時 (年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード	最大 震度
1	2023 年 01 月 11 日 04 時 36 分	兵庫県北部	35° 25.6' N	134° 29.5' E	9	2.0	—

(2) 鳥取県内で震度 1 以上を観測した地震

2023 年 1 月に鳥取県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震はありませんでした。

(3) 地震・津波の知識

気象庁が行う地震の現地調査

規模の大きい地震が発生し震度5強以上の揺れが観測されたり顕著な被害が発生した場合、気象庁では震度が観測された地域に職員を派遣し現地調査を行っています。現地で顕著な被害があり、調査結果を広く公表する必要があると認められる場合は、「気象庁機動調査班（JMA-MOT）」を組織し現地へ派遣します。

鳥取県内では、「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」や2016年の鳥取県中部を震源とする地震の際に現地調査を行っています。

気象庁が独自に現地調査を行う目的は以下の2つです。

① 震度計の緊急点検

大きな震度を観測した場合、地盤が緩んだり震度計台にヒビが入るなど震度観測点の観測環境に異常が生じることがあります。このため、観測された震度が適正かどうか、今後とも正常な震度観測が継続可能かどうか確認するため、震度5強以上を観測した震度観測点の観測環境等を点検します。点検の結果、異常が認められた場合、速やかに震度情報の発表対象から外すと共に、今後の対応を検討します。

② 被害調査

震度観測点の周辺で被害状況の調査を行い、揺れによって現れた現象が、「気象庁震度階級関連解説表」に記載している震度階級ごとの現象や被害の状況と相違ないか確認を行います。具体的には、震度観測点の周辺（約200m内）で、建築物やブロック塀、石垣などが受けた被害や、道路や地面、斜面の亀裂・ひび割れ等の発生状況、自動販売機や石灯籠、墓石などの倒壊などの状況を調査します。

このような調査により、被害状況に関する新たな事例が得られたり、建物・構造物の耐震性の向上等によって実状と合わなくなったりした場合には、「気象庁震度階級関連解説表」の記述を変更することとしています。なお、顕著な被害が発生した場所では、震度観測点周辺以外であっても被害調査を行います。

報道発表資料 平成28年10月21日 鳥取地方気象台		
平成28年10月21日14時07分頃の鳥取県中部の地震における現地調査について		
平成28年10月21日14時07分頃に鳥取県中部で発生した地震について、鳥取地方気象台は、本日（10月22日）、「気象庁機動調査班（JMA-MOT）」を派遣し、鳥取県内で震度6弱、5強を観測した震度観測点及びその周辺を中心に、地震動による被害状況及び震度観測点の観測環境について現地調査を実施しました。調査結果の概要は以下のとおり、詳細は別紙のとおりです。		
1 地震動による主な被害状況		
震度観測点から概ね200m以内の範囲で調査を実施しました。主な被害状況は以下のとおりです。		
震度観測点 (観測した震度)	主 な 被 害 状 況	写真 番号
倉吉市葵町 (6弱)	・住宅窓ガラスの破損 ・河原町支所でブロック塀崩壊 ・自販機転倒	写真1 写真2 写真3
湯梨浜町龍島 (6弱)	・用瀬町用瀬で崖崩れ ・用瀬総合支所でブロック塀崩壊	写真4 写真5
北栄町土下 (6弱)	・佐治支所外壁の崩壊 ・住家窓ガラス破損 ・国道482号線陥没	写真6 写真7 写真8
湯梨浜町久留 (5強)	・佐治支所外壁の崩壊 ・住家窓ガラス破損 ・国道482号線陥没	写真6 写真7 写真8
北栄町由良宿 (5強)	・佐治支所外壁の崩壊 ・住家窓ガラス破損 ・国道482号線陥没	写真6 写真7 写真8
三朝町大瀬 (5強)	・佐治支所外壁の崩壊 ・住家窓ガラス破損 ・国道482号線陥没	写真6 写真7 写真8
鳥取市鹿野町 鹿野小学校 (5強)	・佐治支所外壁の崩壊 ・住家窓ガラス破損 ・国道482号線陥没	写真6 写真7 写真8
鳥取市鹿野町 鹿野	・佐治支所外壁の崩壊 ・住家窓ガラス破損	写真6 写真7

図1：2016年鳥取県中部を震源とする地震の際に公表した現地調査速報（1ページ目）

この現地調査は、復旧作業により被害状況が不明になることを避けるため、地震が発生してから速やかに実施する事にしております。JMA-MOT による現地調査の場合、調査の結果は当日の内に速報を作成・公表し、防災関係者や住民の皆さんへお知らせすることとしています。

(参考)

- ・気象庁：正確な震度観測を行うために

<https://www.data.jma.go.jp/egev/data/shindo-kansoku/>

- ・気象庁：震度について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/index.html>

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和5年1月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

URL <https://www.data.jma.go.jp/tottori/bosai/jishin/jishin.html>

問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：0857-29-1313